



はじめに

電子書籍、電子出版で調べていると、バブーの頁にたどり着きました。

どんなものか調べるためには使ってみる、作ってみるに限る、と思い、ブログにまとめていた記録を「本」という形にしておくことにしました。

昭和30年代、40年代を中心とする、青春を過ごした福岡市の近郊の山歩きの記録です。

個人的な趣味の記録、個人史の代わりにすぎないものを読者の方々はどのように受け止めてくれるのか、???

=====

高校時代は福岡市の西新の近くに住んでいたこともあり、ホームグラウンドは背振山系、その中でも井原・雷山は渓谷沿いの道が好きで、足繁く通っていた。



福岡市南西部に連なる脊振山系、左の方で小高い所が脊振山、右になだらかに下がり、上がり始める前が椎葉峠、上がって、ストン下がった所が小爪峠、登って言って、ほぼ平の右端が金山、徐々に下がり、一番低い所が三瀬峠（現在はトンネルになってるらしい）、そのあと上がって井原山に繋がる。（大野城から撮影・2004年8月）

大学時代は東区の箱崎に住んでいたこともあり、元旦のご来光を含め、宝満山を含めた三郡山系がホームグラウンドになった。

それよりも筋湯温泉（大分県）にあった大学の山の家をベースにした久住は下駄を含め、何度いったやら。

その山行も昭和46年12月で休止状態に。

それから30数年、40年近くたって、またそろそろ悪い虫が起き始めている。

(2008年秋・岡山にて)

井原・雷山（昭和36年8月12日）

期日：昭和36（1961）年8月12日

同行：多数（BS班ハイク）

井原の尾根に出た所からものすごい霧。

やっとのことで雷山山頂に着く。



途中で出会った登山者は4名のみ。

背振山脈の北斜面は一面晴れ。

南風のため、南斜面および尾根だけが霧であった。

====

昭和36年というと、中学2年の時ですね。

記録に残っている井原・雷山を初めてやった日です。

英彦山（昭和37年2月）

期日：昭和37（1962）年2月2日・3日

同行：多数

どこかの山岳会が主催した「冬山登山講習会」に参加。



英彦山神社にて

====

土曜日の午後、中学から戻って、リュックを担ぎ、集合場所へ（どこだったか覚えていないが、どうせ天神バスセンター辺りでしょう）。バス2台で英彦山へ。

着いた夜は座学。翌、日曜日は英彦山に登り、実地訓練。

参加者で最年少ではなかった（親子連れの中1がいた）が、親なし参加では最年少だったかな。この年は結構雪が多かった年だった。

三郡・宝満山（昭和37年5月）

期日：昭和37（1962）年5月13日

同行：三名（I、O、OTNR）



かまど神社にて

=====

写真のみで、メモなし。

古すぎて、あまり覚えていない。

三郡縦走（若杉・三郡・宝満）したのか？

三郡に直登し、宝満におりたのか？

写真も三郡頂上と、掲載のかまど神社の分としか残っていない。

うろ覚えの記憶では、この時かどうかは別にして、
三郡直登を1回やったような、やらないような・・・

このころは英彦山にも一緒に参加したIと一緒に登っていたようだ。

このときは、Iの親か、私の親かが心配してプロをつけてくれた。

（だろーと思ひます。それが写真の大人の人）

今でいえば家庭教師、家庭じゃなくて、家外ですかね。

霧島縦走（昭和38年8月）

「山の記録」を見て、keiさんが45年前の記録・写真を送ってくれた。

期日：昭和38（1963）年8月12日～15日

8月12日

博多～（第2えびの号）～いいの駅～えびの高原泊



13日朝炊飯場で、目が覚めていない！

8月13日

～韓国岳～獅子戸岳～新燃岳（今噴火しはじめたんですかね）～中岳～高千穂河原泊



8月14日

～霧島神宮駅～南宮崎～青島～車中泊



青島

8月15日

～博多

keiさんからのメッセージ

Kです。なるほど、いつも下駄はいていますね。

=====

高校1年の夏休みですね。下駄通学だったもので、リュックの中にも下駄は入っていたのでしょうね。

さすがに縦走のときは下駄じゃなかったと思いますよ？

14日は高千穂の峰に登る予定だったのが、13日深夜からの雨であきらめて朝のうちに下山。

宮崎発の夜行鈍行まで時間をつぶすために、青島へ行ったり、だれかが散髪したりした記憶があります。

博多発、博多行き片道切符だったかな？

新燃岳、先週(2008年)8月22日に噴火していますね。

<http://www.asahi.com/video/hivision/TKY200808240108.html>

われわれの登った少し前、昭和34年2月にも大噴火しています。平成3年の噴火では1991年11月26日から2004年1月30日まで登山禁止の措置もとられているようです。

宝満山 昭和39年初日の出

期日：昭和38年大みそか～昭和39（1964）年元旦

同行：一名（K）

タイム：

21:25 西鉄福岡駅 発
22:03 太宰府 着
22:05 同 発
03:10 キャンプ場 発（宝満山頂直下）
03:20 宝満山頂 着
??:?? 同 発
05:05 かまど神社
05:40 太宰府 着
05:50 同 発（西鉄電車）
06:25 福岡駅 着

Kのメモ

登山の時は月も霞んで見えのんびりしてとても良かったが、キャンプ地につきBSのテントで寝ていると

雨が降り出し下山は傘をさし暗闇をヘッドランプの明かりを頼りにおりた。I, M, Tの三君にも無事会えたがものすごい人出で探すのが困難であった。

帰りにひいたおみくじの事故は二度転んだだけで済んだ。t 2君とはキャンプ地で別れたが、自分もまだテントで

ゆっくりしたかった。写真が1枚も撮れなかったのが残念だった。

====

以上、同行したKの記録・メモである。

キャンプ場で別れたということは、私はそれからどうしたのでしょうか？

高1の正月ですね。

高1だったか、高2だったか忘れましたが、冬休み、登山用品を買うために、Kと二人で（いや、二人とも、別々に）アルバイトに精を出していた。

私は大みそかまで電気屋で、Kは郵便局の年賀状配達だったかな？たぶん、高1の時でしょうね。

Kが雨が降り始めて、一人早めに帰ったのは年賀状の配達のためかな？

それにしても大みそか6時ころまでバイトして、9時過ぎには宝満に向かっていたのかな？

アルバイトで稼いで買った登山用品

「ホエーブス」と云ったっけ？ 山用のガソリンコンロです。 後日、[雷山のスキー](#)で新聞に載ったやつです。

ホエーブス出てきました。

さすがに40年近くほっておいたのでさびだらけで、もう使える代物ではありません。

PHOEVUS NO.625

箱に「昭和39年1月12日購入、定価4300円、買値3900円、中州 体育堂」と書いてありました。

確かkeiさんと一緒に買いに行って、2台買うからマケテと値引き交渉したような。

高1だったか、高2だったか忘れましたが、冬休み、登山用品を買うために、Kと二人で（いや、二人とも、別々に）アルバイトに精を出していた。

私は大みそかまで電気屋で、Kは郵便局の年賀状配達だったかな？たぶん、高1の時でしょうね。

Kが雨が降り始めて、一人早めに帰ったのは年賀状の配達のためかな？

それにしても大みそか6時ころまでバイトして、9時過ぎには宝満に向かっていたのかな？

アルバイトで稼いで買った登山用品

「ホエーブス」と云ったっけ？ 山用のガソリンコンロです。最初の使用は記録に残っているのは夏の[三郡縦走](#)ですね。それまでにどこかで使っているか？ 後日、[雷山のスキー](#)で新聞に載ったやつです。

ホエーブス出てきました。

さすがに40年近くほっておいたのでさびだらけで、もう使える代物ではありません。

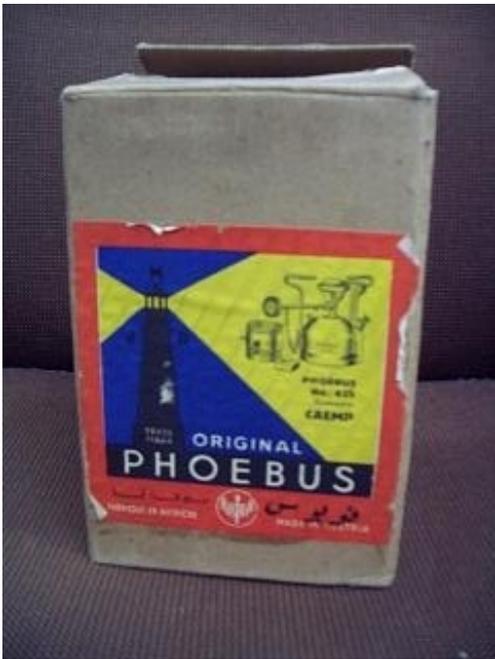
PHOEVUS NO.625

箱に「昭和39年1月12日購入、定価4300円、買値3900円、中州 体育堂」と書いてありました。確かkeiさんと一緒に買いに行って、2台買うからマケテと値引き交渉したような。

Webで調べると、[旧旧型の後期型角缶](#)らしい。

当時は何とも思っていないんですけど、個人で、それも高校生の分際で、あれを持っているのはすごいことだったようです。

====



外の紙の箱まで取っています



Phoebusのシールで紙箱は封印されていました



紙箱には購入のメモが



角缶で「旧旧型」だそうです



文字の位置で後期型だそうです



35年以上ほっておいたのでさびだらけ。使えるシロモノではありません。ビニール袋の中には余熱用のゲル状の固形燃料のチューブが入っていました。（当然、蒸発して空っぽです）

====



缶から取り出してみると、この通り、見事なさび具合。
ポンピングのためのピストンは動くが、気密がどこまで保たれているやら。

少し振ってみると、タンクの中でピシャぴしゃ音がする！
これって燃料のホワイトガソリンが残ってるのだろうか？

三郡縦走（昭和39年7月）

期日：昭和39（1964）年7月（日は記載なし）

同行：一名（KRW）

若杉の山中の林の中で一泊して、次の日縦走していますね。
きっと朝早く起きて天神に出るのを嫌がったんでしょうね、
よく覚えていませんが。

バイトで購入したホエーブスも活躍しているようです。



夏なので、フライトシートだけ



ホエーブスも光っている



宝満山頂上よりの福岡市内遠望（バテて起き上がれ

ない)

テントはないが、あれだけ荷物を担げばバテもするでしょう。

思い出した。このころは「XX k g 担いで、三群縦走をYY時間以内」にと言われていたんだ。このため、若杉の石が宝満に移動していると（ほんとかどうかは別として）一部で言われていた。その訓練のつもりだったんでしょう。

写真に凝ってるKRWが同行なので、写真がすべて傾いている。

福智山縦走（昭和39年11月）

岡山やら関西やらで「福知山」と言えば、当然兵庫県の福知山。
JRにも福知山線とあるくらい有名ですよ。

でもちょっと字が違う「福智山」は？
そう、私が青春時代を過ごした福岡県にある山です。

keiさんが記録・写真を送ってくれました。

=====

期日：昭和39（1964）年11月7日・8日

同行：一名（K）

タイム

11月7日（土）

博多（14：30）～直方～竜王峡（17： ）～尺岳キャンプ（17：45）



直方は炭鉱の街だった

（45年ぶりの鉱夫の象の写真が、次にあります。同行者のKさんがブログ仲間に載せてもらったそうです。）

<http://blog.goo.ne.jp/frp-tomi/e/d4175534f0fb08e4824e12da30034fc0>

11月8日（日）

～起床（6：10）～出発（8：00）～ ? （8：28）～福智山（9：56）

～出発（10：12）～牛斬山（?： ）～採銅所（17：52）～小倉（18：40着19：05発）～博多（20：05）



福智山山頂にて



牛斬山に近い？バックは青春の門（五木寛之の世界

)



尾根の上の防火線 牛斬山に向かうところですかね？

====

竜王峡までは西鉄バスを直方で乗り継いで行きました。

昔は土曜日は半ドンだったので、午前で学校が終わり、飛んで帰って、準備をして天神バスセンターから犬鳴峠を越えて、直方へ。ここでローカルバスに乗り換えて、夕闇せまる竜王峡へ。キャンプ場についてテントを張った時には暗かった記憶がありますね。11月だもんね。陽も短いのでよく計画したもんだ。

記録では「尺岳キャンプ場」となっているが、たぶん現在の竜王峡キャンプ場。とすれば翌8日の8:28の「？」が「尺岳」でしょう。

それから福智山を越えて、牛斬山までよく飽きもせず歩いていますね。「青春の門」に出てくる香春岳を横目に、日田彦山線の採銅所駅まで。10時間近くというのは祖母・傾縦走に匹敵する長さですね。

「(福岡)県内三大縦走路」とメモがあるそうですが、他の2つはどこだろう？
ひとつは三郡縦走かな？ もひとつは？

宝満山 昭和40年初日の出

期日：昭和40（1965）年元旦

同行：二名（K、G）



雲の間からの日の出

三郡縦走（昭和40年3月）

期日：昭和40（1965）年3月（日にちは記載なし）

同行：八名（二年三組有志）

二年三組のお別れ遠足？



若杉頂上 まだ皆元気いっぱい



三郡頂上



宝満山頂上

三郡では特に残雪がひどく、また縦走の途中で何度か雪に降られる。少しひどかったが、たいしたことなく、初めての連中にとっては、めずらしくもあってよかっただろう。

遅れたものは二・三人づつ置いていくので、トップはすごいスピード。さぞかし時間がかかるだろうと思っていたが、これまでの3回の縦走のうちでは、一番早いタイムだった。

=====

今思うと、危なかったですね。

よくまあこんな軽装で雪が残る、ときおり吹雪という天候の中、宝満まで通したものです。

宝満山 昭和41年初日の出

期日：昭和41（1966）年元旦

同行：二人（K,KB）



keiのメモ

K（テント持ち）t2、KB）がメンバーでBS20も早くから来ていた。日の出前2時間くらいから山頂の石の上でがんばっていたが残念ながら地平線には見えず。東の空にタコをあげた男がいた。

===

昭和41年の正月といえば、高校卒業の年、といえば、大学受験前ですよ。その大みそかから元旦にかけて、この年も登ってたのです。最初、この写真をkeiさんが送ってくれたとき、昭和41年という日付は間違いじゃないの？と思いましたが、やっぱり行ってたようです。

まあ、入試は3月の3・4・5日とふた月先でしたが、風邪をひくとか考えなかったのでしょうか。

タコ揚げしていた者がいたのはよく覚えています。

宝満山 昭和42年初日の出

同行：なし（単独）

夜9時過ぎに紅白が始まる頃、箱崎の家を出て大宰府に向かう。天満宮を0時前に通り過ぎて、かまど神社に向うも小雨が降っている。

かまど神社に着くころには本格的な雨に。

かまど神社の境内には様子見の登山客でいっぱい。

本殿でしょうか、祭殿でしょうか？、屋根のあるところが開放されており、すでにぎゅうづめ状態だったが、一人分の空きをこじ開けて、小さく？うずくまる。

結局、登頂はあきらめてかまど神社で夜明けまで沈没。

明るくなったところで、小雨の中、帰路へ。

ということで、この年は写真もなし。

かまど神社では数人の知人と顔を合わせた記憶はあるが、誰だったでしょうか？

=====

この年度末から父が転勤族の仲間入りをし、年末年始は両親のいる処へ行く（帰る？）ようになり、元旦のご来光登山はなくなった。

それでも近くの小高い丘には毎年行ってたんですがね。

三郡縦走（昭和42年3月15日）

期日：昭和42（1967）年3月15日

天候：雨

同行：一名（K）

コースタイム

09:45 天神 発
10:20 篠栗
11:15 楽園 着
11:20 同 発
12:00 若杉山頂
13:05 石のあるところ（どこのこと？）
13:25 三角店
13:40 砥石山
14:11 三角店
14:32 つき谷への別れ
14:43 三郡頂上 着
14:48 同 発
15:25 仏頂山
15:35 宝満山頂 着
15:55 同 発
16:52 かまど神社
17:25 太宰府駅 着

Kのメモ

雨、目に横から吹き付ける！

=====

そんな悪天候の中よく行ってますね。

雨のためあまり休めなかったなので、タイム的にはいい値が出てるようです。

写真も無いようです。

下駄で久住登山（昭和42年7月31日）

大学の山の家が筋湯温泉の少し上にあり、そこから牧ノ戸峠越えて久住山頂へ。

山の家では散策のために下駄がたくさんあったが、昔の下駄はよく割れた。石でも挟むとパリンと真っ二つに割れたものだ。

ので、下駄で山に入るのは禁止されていたのだが、そこは無謀な学生魂。

下駄で久住登山へ。

割れた時のため、もう一足腰にぶら下げていく。

久住山頂の写真



の足元を見ると、右足は鼻緒がすれたのでしょね、タオルを巻きつけているようです。



いずれにしろ、下駄であの沓掛山の岩場も通り過ぎたということですね。

35年ぶりの久住のとき、連れ合いに、「昔は下駄で登ったような？」と話すと、この岩場が下駄で通れるわけないと、ウソでしょうと馬鹿にされたが、はからずも証拠写真が残っていた。

40年前の祖母山・傾山縦走

[35年年ぶりの久住](#)を見て、送ってくれた40年前の祖母・傾の記録の転載です。

=====



写真は40年前の祖母・傾縦走

二人とも細いねー。髪は真っ黒でふさふさ・・・

> 祖母・傾は手打ち庵と行ったのを含め、4回ほど行きました。この写真は覚えていませんが、傾の頂上のようなですね。

そのようです。この時の日誌によれば、傾山頂へは縦走路にある九折越小屋から空荷で登頂とありますので、写真の隅に映っている水だけを持って行ったのでしょうか。

日誌には

祖母・傾山縦走 昭和42年10月10日～10月14日とあります。以下日誌の内容です。

10月10日：博多駅7：23発

竹田 11：43着

そこからバスで神原 13：10着

神原から山に入り、八丁越下の水場で

ビバーク 16：40

10月11日：起床 6：00

ビバーク地 8：15発

広河原 10：00着

池之原 13：10着（昼食）

祖母山頂小屋 15：30着

10月12日：起床 4：30

祖母山頂小屋 6：00発

祖母山頂 6：15着

天狗岩 8:30着
障子岳 9:00着
古祖母山頂 10:00着
尾平越 12:30着 (昼食)
三国岩 14:50着
本谷山頂 15:15着
笠松 16:10着
九折越小屋 17:15着

10月13日 起床 7:00

傾山頂 (空荷) 9:40
九折越小屋 10:40着
この後、雨のため九折越小屋で酒盛り
麓まで、往復3時間かけて酒を買いに行く

10月14日 起床 5:40

九折越小屋 7:10発
見立バス停 9:20着

この後、延岡へ出て、宮崎の t 2 君のご両親の元でお世話になりましたね。あの頃が懐かしいです。

>今回、レゾネイトクラブくじゅうのテラスから山なみ
>を眺めましたが、あそこに行くのもう無理みたいですね。

でしょうね。この縦走は、祖母から傾までが長くて、行けども行けども次から次に峰を越えなければならず、かなりしんどかったのを覚えています。

さすがにこのコースは無理でしょう・・・が、
傾だけならなんとかなるかも??

手打ち庵 ++.. 2008/08/21(木) 16:56

=====

山小屋でどぶろくを飲んで酔いつぶれた記憶が残っている。

昔は9月末に前期末の試験があり、それが終わって
10月の16日の後期開始までが秋休みだった。
その秋休みに行ってるようです。

大船・久住（昭和43年6月）

昭和43年6月（日は記録なし）

大学祭中

前夜10:30過ぎ、I氏リュックをかついで部屋にやって来て曰く

「おい、久住へ行くぞ！」

バタバタと用意をする。食料はIの持ってきた米3合とあとは即席ラーメン他。

中村着10:10、バス待ちの5分間に食糧買出し。

登山口より、すがもり越え。考えてみれば、登山口から登るのも初めてならば、すがもり越え、坊ヶヅル・大船も初めてのコース。



| | |
|--------|-------------|
| 登山口 | 10:35 |
| すがもり小屋 | 12:20－13:30 |
| 坊ヶヅル | 14:10 |



法華院温泉

坊ケヅルに同じ大学WVのテントあり。
そのわきにテントを張り、未だ暇だな！
大船にでも登るかとポリタン片手にエッチラオッチラ。

おじいちゃんもおばあちゃんも、若い子もたくさん登ってるよ。

| | |
|------|-------------|
| 坊ケヅル | 15:10 |
| 大船 | 16:15－16:25 |
| 坊ケヅル | 17:15－おやすみ |

ミヤマキリシマは盛りを過ぎ、少々遅かったのかい！
それでも大船の群生はミゴト みごと・・・



坊ケヅルにおりて夕食を作ると、持参の米はなくなってしまった。朝の為に WV にもらい米

このあと、翌日久住に登ったのだがどういうわけか写真がないよ。

| | |
|------|-------------|
| 坊ケヅル | 08:10 |
| 東千里 | 08:45 |
| 久住別れ | 09:30－09:40 |
| 久住頂上 | 10:00－10:20 |
| 久住別れ | 10:30－10:40 |
| 牧ノ戸峠 | 11:30 |

牧ノ戸で昼食、ビールを飲んで中村に出るとK（大学同級生）のGroupに出会う。今から山に入る由。

博多駅着。二人の所持金合計、20円。
電車の回数券を持っていて事なきを得る。

====

金がないのは別として、食料も持たずに無茶していますね。
WVがいなかったら二日目の食事はどうしたのでしょうか？

それにしても、あのキスリングザックを背負って、下りとは言え久住の頂上から牧ノ戸までほぼ1時間とは、若さですね。

記録のために法華院温泉の写真も追加しました。
すがもり越のコースで坊ガヅルに入ると、入口にあるのが法華院温泉。名前の通り、温泉なんだろうが、学生の身分で泊まったことはありません。法華院からさらに15分？ほど行ったテントサイトがいつもの泊場所です。

連れ合いは一緒になる前に職場の人たちと、法華院に泊まったこともあるそうですが、米は持参だったとか。この頃ははまだランプの時代じゃなかったかな。

北ア 槍・穂高（昭和43年7月20日～25日）

期日：昭和43（1968）年7月20日～25日

同行：一人（手打ち庵）

初めての北アルプス

7月20日

09:15特急つばめで福岡をたつ。

計画の途中でKが降り、こちらも不安になる。

名古屋におりるとすごい行列。

発車の3時間も前から数百人。席が取れるか不安。

なんとか席を取るも、なかなか眠れず。うとうとを繰り返すうちに

7月21日

03:30 松本着。手打ち庵と合流。

新島々でバスの出発を見送り、徳本峠を目指すも、

ひよんなことからタクシー1000円で上高地へ。

予定変更し、大正池でおろしてもらい、のんびり朝の散歩をする。

朝もやの残る大正池、それに映る穂高はすばらしい。



大正池より穂高

田代池は後にし、梓川に沿って歩く。

標高1500mと云えども暑い。水の冷たさにおどろき、穂高に感激してザックの重さを忘れる。



河童橋より穂高

写真でたびたび見ていた河童橋に出る。
人の多さにビックリ。バス停がこの少し下にあるとか。
団体旅行のミニスカートのかわいい娘。
穂高を眺めていつまでも座っていたい。

河童橋より明神、徳沢、横尾と平坦な道を飛ばす。
ガイドブックの8割くらい。
それでも上高地発が遅く、横尾到着は正午ごろ。

途中、山岳部のザックにビックリ。少なくとも2倍か、3倍くらいかついでいる者もあり、ほんとにヒーヒー言って歩いている。

昨日の転落事故（九大山岳部）らしき者が車でおろされて行くのに出会う。やはり好い気持ちではない。

夜行の疲れも出てきて、泊まることにする。河原の岩のゴツゴツしたところにテントを張り、まずは昼寝。

夜8時ころ騒いでいるパーティに「うるさい」と怒鳴って、21日の夜は更けていく。

7月22日

明けて22日も快晴。

本日の予定は槍まで。のんびり行きましょう。

横尾よりようやく山道らしくなる。

しばらくはササを分け、林に囲まれて小沢を渡り、と涼しい道でもあった。

一の俣の丸木橋をおっかなびっくり。

二の俣のつり橋を揺らしながら渡る。

ここらより傾斜もきつくなる。

汗はタラタラ。



槍沢の雪溪

涼しい風が吹いてきたな！と思うと槍沢小屋に出た。

雪溪を目の前にしてオー！・・・

のんびり休んで腹ごしらえ。

小屋で聞くと、今年は雪解けが半月遅いとのこと。

槍沢小屋のほんの先から始まっている。

雪溪の下を水がゴーゴーと流れていると思うとムズムズしてくる。

夏山の雪溪などたかが知れてると！と思っていたのは大間違い。雪上訓練の無さが響く。

キックステップが一步一步続く。ときどき滑って手をついて止まる。

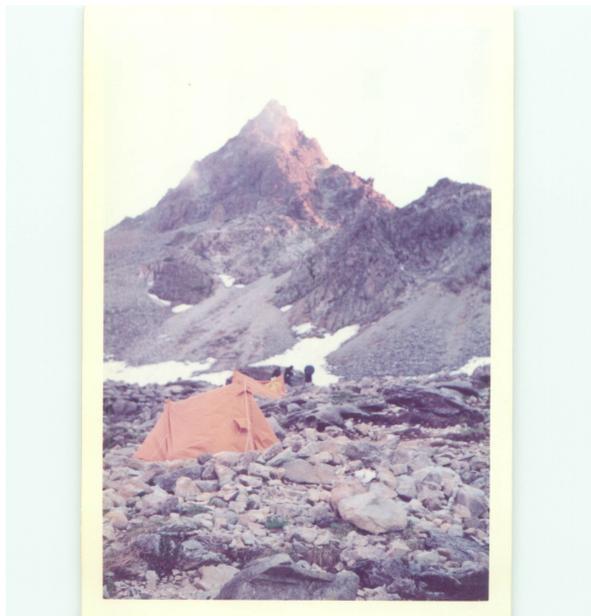
これが槍まで延々4時間も続く。

もう雪を見るのはイヤダ！と叫びたくなる。

バテ気味で殺生ヒュッテに着く。

キャンプ場はヒュッテの横。

下から眺める槍は素晴らしい！



殺生ヒュッテのテント場 槍の真下

夜半、Iがトイレに抜け出して叫んだ。「星が多いぞ！」

7月23日

日の出に槍に登るのはやめ、のんびり朝食。

明け方の寒さは厳しい。

キルティングを着ていてもガタガタ。

コンロに点火してほっと一息。

テントの中から富士山が雲の上に顔を出しているのを眺める。



槍より穂高方面(寝るな！起きろ！)

やったぜ 3180m！ 日本第5位。

初めての3000m、いや2000m越えるのも初めて。

高一の長期計画では大学一年で登るつもりだったのが、

2年も遅れてしまった。

あとどれだけ登れるやら・・・

=====

アルバム上の写真、メモはここで終わっている。

このあと、南鎌尾根を穂高に向う。

南岳からいよいよ大キレット、その向こうには北穂があるはず。それがガスって何も見えない。

キレットは明日にして、南岳の小屋に素泊まり。

天候はますます悪くなる。隙間から吹いていく風は湿気を含んだものから、小雨混じりに。

翌朝も雨雲の中にあった。

体調も今一。

高度にうまく順応できなかつたようで、体がむくんでいる。げんこつを握っても、手の甲の指の関節のデコボコができず、ドラえもんの手のように丸くなっている。

穂高をあきらめて、降りることにする。

同じ結論を出した松山(?)の二人連れのパーティと一緒に、南岳から槍沢へのルートをとることにした。

このルートはあまり使われていないルート、さらに今年は雪が多い、ということで、ルートを探すのに結構時間がかかる。

松山のパーティと隣り合わせで徳沢でテントを張る。

元気なもので、1500mにおりてくると、先ほどのむくみはとれている。げんこつの甲にもデコボコが戻ってきた。

上高地・河童橋はミニスカート・ハイヒールの世界。

明神までは散歩の範囲。スニーカーの世界、たまにヒールもいる。

徳沢になるとさすがにスカートはいなくなるが、まだ観光客もいる。

徳沢の小屋(宿)、徳沢園は「氷壁の宿」として有名になっているが、

ここはまだ「宿」と言える。(その上の横尾は「小屋」ですね。)

早めの夕食をして、松山のパーティと話していると、

徳沢園の小屋から父親と娘の二人連れが話しかけてきた。

嫁入り前の親子での最後の旅行だそうだ。

キャンプファイヤーをやったことがないという、お父さんの希望をかなえるべく、山から下りてきた我々4人と、その親娘でミニキャンプファイヤ。

マキはお父さんが徳沢園から園の人と運んでくれた。

徳沢と云えども山を目指す人の夜は早いので、8時ころには終了。

30年後には私もと思ったものだが、35年後に娘が結婚する時には、そんなことは忘れてしまっていた。

三郡縦走（昭和44年4月）

期 日：昭和44(1969)年4月9日 天候 晴れ

同行者：二名（N、H）

コースタイム：

バスセンター（8：12発）－ささぐり（8：45着）－楽園（9：55着）－若杉（10：27着）
－ショウケ（11：15着）－三角点（12：10着）－トイシ（12：25着）－三郡（14：01着）
－宝満（15：00着）－かまど（16：54着）－大宰府（19：00発）

Nが初めて何とか山とよべるところに登った記念すべき日

〇とか云う鳥飼小のやつや小姑のような女が二匹宝満の

ところで、出あって、Nが小さくなる。「やっぱりめざしは、持って

行くものだ」天気よけれども風強し、寒かったのでNの

ジャンパーを持ってかえた。

三郡山頂上では運輸省のレーダーサイト（福岡空港の管制用）の建築中



--- 別のメモです---

前日、天神のサテンでNと会い、前々からNの言っていた「山にでも行くか！」

彼の山登り初めての日。

（天神バスセンターで待ち合わせ）

KはBSで来れず、彼の登山靴を借りてさっそうとデビュー。

前日、人形劇団の終了後Hに会い、

今日来るかも知れぬとのこと。待つ間もなく
時間を守ってH登場、高校時代からみると（定刻に来るなんて）信じられない感じ。

昔話（？）に花を咲かせながら道を間違えたり、
天気は快晴で春の空気を吸い、楽園、若杉に着く。

1週間前の九重で痛めた足のため、登山靴の足慣らしはできず、バッシュという出で立ち。

ショウケ越につき、早々と1回目の食事。

（自宅組の）NとHの弁当を食べ、ホンジャマール砥石をがんばるか！

平日のため、他に登っている者に出会わなかったが、
砥石山の頂上で一人のオノコが火を焚いていた。

（後で宝満山の写真に登場）

2回目の食事！

三郡に向かう。

時に昼過ぎ、春霞、花曇り、
バテ始め、気温も下がり始める。

三郡に着くころにはハーハー。

運輸省のレーダー建設も進み、頂上には昔の面影なし。

早々に三郡を後にする。

三郡を出てすぐ、N曰く「タイム！」

Kが交通事故の見舞金で手に入れた自慢の靴も。

Nには合わず、そろそろ豆のでき始め。

備えよ常に！ 準備よろしくバッシュも持参。

バッシュにはき替え足はよろしくなるが、
重い重い登山靴がリュックに入り、肩は悪しくなる。

H一人元気に歩き、二人曰く「H 若いなあ」

P部のCamp時のタフさは持続しているようだ。

ようよう宝満に着く。楽園での写真と見比べると・・・

残り物をたいらげていると、先ほど砥石で会ったオノコ

登場して曰く「t 2 じゃないや？」

この時以来、宝満に登った時には知った顔と出会うようになった。

所がこちとらには覚えがない。

Nの方が覚えていて、何でも小学校の時、一緒だったとか
そうじゃなかったとか。

まだまだびっくりする者は現れる。

頂上で小1時間ほど焚火をしたり、戯れて、下りはじめる。

上宮に着くと、

二人のメノコ、野ッ原に寝転がって、
空を見つめていたんじゃないくて、昼寝をしていたそう。

これこそ誰だろう！ M家のn（K云う所のシュウトメ）と、
後にNの最愛の妻となるYコ。

そう言えば、今朝会ったとき、昨日人形劇で明日山へ行くと
話した所、nが連れて行け行け云うのを退けた所、
二人で宝満に行くとか話していたそう。

かまど神社の桜は満開！
大宰府でビールを飲んで福岡へ。
Nは躊躇しながら「やっぱりメノコを送っていく」

ほっぽり出されて、Hと夕食。
春の一日は終わりぬ。

=====

大学4年の時です。
Hは関東の短大に行っていたが、卒業して博多に戻り、OLを
やっていた時ですね。

さて、この時のタイムを参加しなかったKがなぜか持っていて、一年前ほどにメールで送ってもらった。

メールを見つけたら、通過タイムを載せることにしよう。

====

メールが見つかったので、頭にコースタイムを掲載しました。(08.08,27)

背振・金山縦走（昭和44年4月）

期日：昭和44(1969)年4月20日

同行：三名（N, K, I）



N、2回目の山行き。

前日よりK、N宅に分散して泊まりこみ。

<自宅組のK宅に、多分私が、N宅に泊まったんでしょう。なお、K宅とN宅は隣り合わせ>

N、前回の三郡で楽しくなったのか、Kをせっついて重い腰を上げさせる。

メンバーを見ればわかる如く、
落語か漫才か、口八丁、手八丁で背振は楽勝。

つらつら思うに、背振の頂上は9年ぶり。

小学校6年のとき以来、2度目である。

山頂横にはドライブインができてるし、もう歩いて登るところではなさそう。

<背振の山頂にはこの9年前に登った時にはすでに、レーダーがあった。板付飛行場（米軍から自衛隊）用と思われる。このため、保守用？の車道があり、車が頂上脇にまでこれるようになっていた。>

早い者勝ちで、バラバラになりながら椎葉峠、鬼ヶ鼻、小爪峠で一休み。

ブッシュに覆われて荒れた道を探しサガシ金山へ。

この翌朝、N宅<もらい火で>燃え上がる事になる。

嵐の前の静かな一日。

久住（昭和44年9月）

期日：昭和44（1969）年9月（日にちは不明）

同行：4名（S,M,T,N：学科の同級生）＋おまけ

筋湯の山の家で、院試の受験勉強合宿。

非常なスランプに取りつかれていたM氏の提案で、
山で合宿してお勉強をしましょうと出かけた。

ところがトコロが話がちがう。
管理人のおじさんが、勉強するならと奥の一角を
与えてくれたのに・・・

着いた時から麻雀にあけくれる。

山に登ったらふざけた女の子（写真に写っている）に出会う。



久住の御池にて

牧ノ戸峠から人の後ろについて久住に登ったまでは良かったが！
「登山口に連れてって！」だとさ。

フェミニストのM氏がいるもんだから・・・

途中で局地的な集中夕立に出会い、ずぶぬれ。

2泊して最後の30分位お勉強。

何しにいったやら・・・

=====

別府・九重・阿蘇・熊本の「やまなみハイウェイ」ができて、普通の観光客が久住の頂上まで来

てしまうようになってしまった。

我々もあまり言えた状態ではないですね。

下駄かどうかはわかりませんが、少なくとも雨具の用意も
非常食の用意も何もなしで、久住には散歩しているところですから。

結局、北千里、すがもり越で長者原の登山口へ下り、女の子をバスに乗せて、我々は牧ノ戸峠まで歩いて登って、山の家に戻ったような。

勉強はしなかったが、この合宿に参加した5名は全員、大学の教員になっていますね。

祖母傾縦走（昭和44年11月）

期日：昭和44(1969)年11月1日～3日

同行：なし（単独行）



11月1日

五ヶ所 10:00—10:07
鳥居 11:26—11:40
めし 12:05—12:35
ワナバのダキ 12:43
ピーク 13:15
水場 14:00—14:22
国見峠 14:37
水場 14:50—15:00
祖母山頂 15:35

11月2日

山頂小屋 06:16
山頂 06:30—06:40
クログネ尾根 07:25—07:30
天狗 07:33
障子岳 08:05—08:11
古祖母 09:10—09:30
尾平越 11:24—12:15
三国岩 13:59
本谷 14:15
水場 14:17—14:31
笠松 15:45
九折越 16:58

11月3日

九折越 05:30
傾山頂 06:30—06:38
小屋 07:20
水場 07:31—07:35
林道出合い 07:57
林道別れ 08:12
川 08:15—08:26
一軒家 08:50
見立 09:08—10:16 (バス待ちの時間)
日の影 11:54

2年ぶりの祖母傾

来夏の北アを目指してきたえ始め！

丁度国労・労働のストで汽車が動くか？

早めに博多駅に行き、プラットフォームで仮眠。

ワングルのOpenワンデルで高森まで一緒に。

(午前1時過ぎの)夜行鈍行は(ストのため)打ち切り。
急行にただ乗りして熊本へ。

(熊本で肥薩線の始発に乗り換え)

うとうと眠っていたら汽車が止まっている。

駅名は「たての」

ひょっとすると乗り換えのはず。調べるとやはりそう。

動きだしそうなところを、あわてて飛び降り、

(高森線へ乗り換え・現在は三セクの「南阿蘇鉄道高森線」)高森へ。

バス停は歩いて5分ほどのところ。ワングルと別れて
いよいよ一人。

バスを途中で乗り換えて、ようよう五ヶ所着。

本当に乗り換えの多いコースだ。

登山者名簿に書き込んで、そろそろ出発するか！

鳥居まではほぼ平坦な林道(?)

ピークまで頑張ろうといよいよ坂に取り掛かるも

朝食不十分で地中で腹へった！

一人ものの気楽さ。暑い陽ざしの下で早い昼食。

熊本からバイクで来たという壮年トリオと抜きつ
抜かれつ国見峠までは調子よく行く。

いよいよ最後の登り、ここでうんざり。

バテぎみで祖母山頂着。

しばらく眺めて小屋へ下りる。

その昔、名をなしたディちゃんも今は亡く

(2年前は健在だった)、(2年前に)傾小屋で
焼酎を飲み交わしたおぢさんが今や祖母小屋を守る。

連休と紅葉の季節で山小屋はいっぱいだった。

(このあとはタイムの記録だけで、メモは残っていない。

写真を見ると、傾小屋(このときは無人小屋)で
RKBかKBCかのラジオ関係者と一緒になった記憶があり、
翌朝の傾山頂で一緒に写った写真が残っている。
深夜放送のパーソナリティ?だったようだ。)



====

五ヶ所からのコースはその後2回、計3回行っている。

車がない時代に前泊せずに公共交通機関で祖母登山口に
一番早く着くコースとして使われていた。

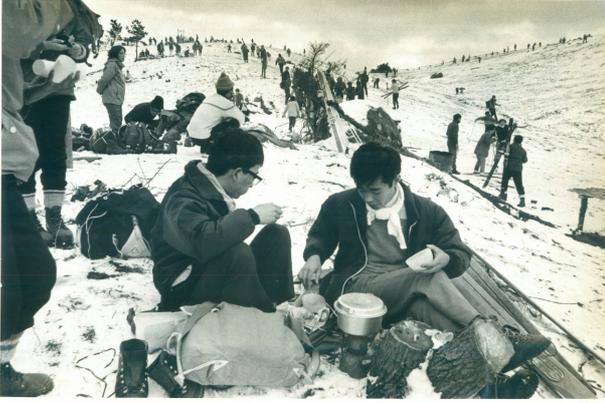
早朝の高森からの阿蘇外輪山を超えるバスは雲海にもよく出会う眺めの良い道だった。

車、バイクであれば鳥居までの1時間20分ほどが短縮できる。

番外・雷山スキー（昭和45年1月18日）

昭和45年1月19日朝日新聞福岡市内版より

「地はだ出ててもお構いなし 雷山 スキーでにぎわう」



十八日の日曜日、福岡地方は久しぶりの晴天。福岡市の西部、糸島郡前原町の雷山スキー場は、延べ千人近くのスキー客でにぎわった。前夜は雪が降らず、そのうえ暖かくて、ゲレンデの雪はうすべり並み。あちこち地はだが顔をみせるほどだったが、地元でスキーを楽しめるチャンスが少ないだけに、まだらの斜面にもおかまいなし、貸しスキー屋が繁盛した。

「そこだいてー」へっぴり腰が大声をあげてきたかと思うと、ズシーン。地ひびきをたててころぶ。ワーッという歓声。「こんな日にすべったらスキーをこわす」と気どっているのはベテラン組。せっかくだから、と携帯用のコンロを使って、インスタントラーメンで昼食をとる人、晴れわたった玄界灘を見わたしながら山歩きの楽しむ家族連れも多かった。

====

昭和45年1月18日 晴れ

早朝M<写真の男>に起こされて出発。

博多駅で朝食、弁当を買いこむ。

バスに乗り間違えたり、道をまちがえたり

で、スキー場着は正午ごろ。

MM<大学の同級生>、彼女と井原を目指してきたが
スキー場で合流。

天神の新聞社に行って、記事の写真をわけてもらった。

三郡縦走（昭和45年2月11日）

期日：昭和45(1970)年2月11日

同行：？誰が同行者？別動者？



1969年の大管法ストも終わり、大学卒業を目前に控え、
Oが山に登りたくなり、その他おおぜいと連れ立った山登り。

O、前日より<t 2の下宿に>泊まり込み。
朝の入れ違い？で、O助手、H助手 両氏先発。

ピッチを上げて、ショウケ越の登りで追いつく。

天気快晴なれど風寒し。
日蔭には先日の雪も残る。
O、M 雪と戯れて喜ぶ。

宝満頂上で女子大山岳部のEと出会う。
この所、山で知った者とよく出会う。
せめて山くらいでは知った顔は見たくないものだ。

久住・大船（昭和45年3月）

期日：昭和45（1970）年3月12日・13日

同行：一人（K）

出発45年3月12日 晴れ

長者原 11：15発～いおう所11：35着～すがもり12：40着13：10発
～九重分れ13：50着～久住山頂14：10着14：20発～九重分れ14：42着
～分れ15：07着15：15発～坊ヶツル16：15着 ～テントの中17：40着

3月13日 雪

起床7：00～坊ヶツル10：40発～大船頂上11：55着12：35発
～坊ヶツル13：20着14：10発～長者原16：00着～中村19：03着



長者原からすがもり越の途中

=====

坊ヶツルでテント。

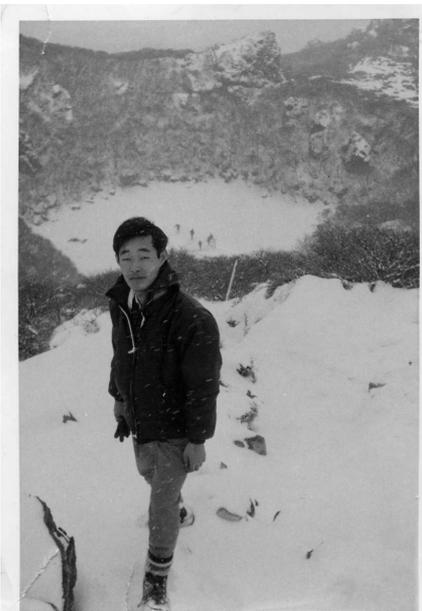
翌朝起きてみると、あたり一面真っ白でびっくりした記憶が残っている。



すがもり越に荷物をデポして久住往復。坊ケツルへ



朝の雪かき



大船・御池は完全凍結



その黒い点となって戯れる

山から帰って、奈良・柏原神宮でのYSGに参加し、その足で東京へ。
東京でスキーの板を担いでいる人を見て、急にスキーでも行くかという気になり、
手袋・靴下をデパートで買い、ヤッケを借りて上野から東北本線の夜行急行に
乗り込み、多くの人が降りた（多分山形？）と一緒に降り、蔵王スキー場の雪の上に皮靴で降り
立つ。

近くのレンタルスキー屋に飛び込んで、板と靴をかり、客引きについて旅館へ。
一泊して、夜行で東京へ戻り、東京で一泊？して、新幹線で新大阪まで（しかなかった）、新大
阪発の夜行急行で博多に戻ったのが3月27日、卒業式の朝9:30だった。

金山（昭和45年4月19日）

期日：昭和45（1970）年4月19日

同行：多数（学科の有志）S講師、H助手、S助手、O助手と3人の院生、合計7名（自分を含む）

S助手の北陸地方への転勤を記念してお別れ登山。

前日より、金山下の国民宿舎に泊まる。

（学生の身分では普段はあり得ないことですね。

テントが普通でしょう。

それより西新に住んでいた者としては、

前泊自身が信じられないですよ。）

天気はけして良いとは云えず、天神のバス停に集まったときには雨さえ落ちていた。

同期のEがリュックとキャラバン、靴下を購入した日でもある。

明けて4月19日、ガスの中をついて出発。

天気が持ち直さなければ坊主滝でも見て返るか！

と思いつつ足を踏み出す。



坊主滝

昨日の雨で下草が濡れており、先頭を行っていたEはキャラバンの中が水浸しに。ナイロンズボンをはいて一番後ろを守ったおかげで、後に自己批判させられる。

金山頂上の少し下でガスから脱出。

頂上では薄日がさしていた。



金山頂上

金山より三瀬・井原を目指すも、
有名なS講師リーダーの牛歩戦術でもマドンナの借り物の
靴はいうことをきかず、ついに豆ができててしまう。

予定変更！ 三瀬峠で車を止め、H助手とマドンナを下まで
送ってもらい、残った野郎5人はテクテクと車道を下る。

北ア 裏銀座 立山・槍縦走（昭和45年7月）

期日：昭和45年（1970）7月17日～7月25日

同行：なし（単独行）

7月17日

御在所岳の国民宿舎で開かれていたサマーセミナーが終了し、大阪駅にデポしていたリュック・服等に着替え、それまでの服・資料等を段ボールに詰めて、大阪駅前の郵便局から小包で東京へ送る（まだ宅配便なんて無い時代です）。富山への夜行急行はこれからの長丁場を乗り切るために、奮発して3等？寝台を取っていた。

7月18日

07:08 富山駅発
08:35 美女平
09:45 室堂 着
10:20 同 発
11:25 はらい堂
11:40 一の越山荘 着
12:15 同 発
12:50 立山神社
12:55 雄山 頂上 着
13:30 同 発
13:55 一の越山荘 着

富山駅でふな寿司の駅弁を買い、富山電鉄に乗り換える。

ケーブルカーを上がった美女平で、高原バスに乗り替える時、改札で止められてキスリングザックの重さを計られ、xxx円取られ、ザックとはお別れ。（人を運ぶバスとザックを運ぶバスは別だった。）

高原はあいにくの天気で雲が低かった。

室堂に着く前に完全に雲のなかへ。室堂に着いた時には雨が降っていた。

当初の計画では劔に入る予定だったが、どう天気図を読んでもまだ梅雨の中。

暫らく天気は望めない。雨の中、劔に挑戦する気もしないので、

予定変更。劔はパスして立山に向かうことにする。

劔をパスしただけ日程には余裕ができたので、室堂のあたりを雨の中散策して立山に行こうとしたが、

雨雲の中、右も左も分からず、きずいた時には、立山のイチノコシサンソウへの道となっていた

これも運命？ そのまま一の越山荘へ。

今回の縦走、全ての日数の食料をかつぐ自信が無かったので、テントと山小屋を一日おきに計画していた。

一日目は劔沢でテント泊りの予定だった。

劔沢を立山に変更したが、この氷雨の中、テントも無かろうと、一の越山荘に素泊りで宿泊を頼む。

7月19日

07:15 一の越山荘 発
07:45 富山大研究所 着
07:50 同 発
09:15 獅子岳
10:15 ザラ峠
11:10 五色山荘 着

7月20日

06:48 五色山荘 発
07:20 トンビ山 着
07:28 同 発
07:40 鞍部
08:51 越中沢岳 着
09:05 同 発
10:06 スゴの頭登り口
10:32 スゴの頭 着
11:00 同 発
11:25 スゴ乗越 着
11:57 同 発
12:37 スゴ小屋 着
12:42 同 発
13:54 マヤマ池キャンプ地 着

7月21日

06:25 同 発
06:48 間山

08:21 北薬師
09:15 薬師 着
10:04 同 発
10:38 休憩小屋 着
10:45 同 発
10:48 薬師平
11:20 薬師峠
11:40 太郎平小屋 着
13:10 同 発
16:00 薬師沢小屋 着

7月22日

06:15 同 発
08:00 薬師見晴らし 着
08:15 同 発 (08:05か? 判読できず)
08:30 平らなところ
09:35 雲の平山荘 着
10:15 同 発
12:05 黒部源流 着
12:30 同 発
13:05 三俣山荘 着
13:13 同 発
13:55 三俣蓮華別れ
14:13 最初の水場
15:17 双六別れ
15:30 双六池 着

7月23日

07:00 同 発
07:34 樅沢岳
10:35 千丈沢乗越 着
11:05 同 発
12:28 槍が岳

7月24日

06:35 同 発
08:05 天狗? 分かれ
09:00 槍沢小屋跡 着

11:20 同 発
11:35 槍沢小屋
11:55 二の俣
12:00 一の俣 着
12:15 同 発
12:50 横尾 着
13:30 同 発
14:10 徳沢 着
15:00 同 発
15:40 明神
16:10 河童橋

7月25日

松本から東京へ

費用

山小屋

素泊まり 800円
弁当付き 1500円×2
弁当無 1430円

交通費

富山・室堂 920円
リュック 200円
上高地・松本 700円

松本・東京・博多

乗車券 3220円

松本・東京

急行券 300円

博多・富山 2XXX円 (正確な値不明)

大阪富山

急行寝台 1500円

買い食いほか 3000円

雑費 1000円

記念バッチ他 1500円

たばこ 830円

=====

まだ写真が見つかりません。どこかにあるはずだが・・・

久住（昭和45年9月8日）

期日：昭和45（1970）年9月8日

コースタイム：

山の家 13:15発

久住山頂 15:40着

16:00発

山の家 17:40着

====

院生時代の研究室のゼミ合宿での運動の時間。

写真がないので下駄だったかどうか不明。

井原 (昭和46年1月10日)

期日：昭和46(1971)年1月10日

同行：一名(O助手)

費用：

天神・野河内 150円

曲淵・天神 140円

市内電車×2 50円

昼弁当 175円

サラミソーセージ150円

タイム：

08:12 天神発

以後 記録なし

=====

バス代の記録から、井原山を単純に往復しているようです。

井原に登ったら、雷山に縦走するのが標準だったので、

このときは何をしていたんでしょうね？

1月だし、雪が多くて敗退したのでしょうか？

まったく覚えていません。

(20080916記)

北ア 表銀座（昭和46年7月）



期日：昭和46（1971）年7月25日～30日

同行：一名

7月25日

博多 09:15発（特急つばめ）

名古屋 20:56着

23:35発 鈍行？急行？特急？

7月26日

有明 04:13着

04:30発 バス

中房温泉 05:30着 天候 雨、気温 19.5度

06:36発

第1ベンチ07:05通過

第2ベンチ07:30着

07:42発

第3ベンチ08:50着

08:55発

合戦小屋 09:27着

10:15発

合戦の頭 10:30通過

燕山荘 11:00到着

7月27日 晴れのち曇り

05:45発（空荷で往復）

燕山頂 06:00着

06:15発

燕山荘 06:25着

06:56発

喜作川-7 08:23

大天井ヒュッテ09:03

09:30

ヒュッテ西岳 11:15
12:40 ??? 11:40の誤りか?
水俣乗越 12:40
12:50
ヒュッテ大槍 14:20
14:30
槍が岳山荘 15:15着

7月28日 晴れ
山荘 06:50発
槍沢ヒュッテ 09:50
10:10
涸沢新道 12:55
涸沢小屋 15:30着

7月29日 晴れ
小屋 06:30発
穂高小屋 07:45
08:05
奥穂高 08:35
09:45
穂高小屋 10:15
10:25
涸沢 11:48
13:00
横尾 15:05
15:20
上高地 17:35

7月30日
松本経由で東京へ

=====

前年の西銀座（立山・槍）の時と同じく、
山の上で梅雨明けに遭遇した。

26日燕への登りは土砂降りとは言わないが、本降りの雨の中を登った。昼前に小屋に入り、雨が

止むのを祈っていた。

明日も雨だったら？ もう一日、小屋に沈殿するか？それでも雨だったら？ 山を降りるか？
という感じに思っていた。

それが、27日早朝、雲が下がった。雲海だ！ 南アの山の横に誰が見てもすぐにわかる富士山の
頂きも見えいている。



雲海の上に浮かぶ富士山



燕山頂より、東鎌尾根の先に槍、さらに左に南鎌尾根の先に奥穂高、前穂

これが梅雨明けだった。俗に「梅雨明け十日（は晴れ）」というが、その通りだった。

北アの「表銀座」というので、大したことなからう、素人向けとっていましたが、大天井から
槍まで結構のアップダウン。

垂直に近い結構長い梯子にはいっくらかビビりました。

====

(2008.09.05) 友人（リワキーノ）が写真をPhotoshopで修正してくれたので、差し替えしました。

井原・雷山（昭和46年9月15日）

期日：昭和46（1971）年9月15日

天候：曇りのち晴れ

同行：二名以上（二名の教官の名前が明記されている）

コースタイム

野河内 09:42発

二股瀬 09:55

川渡 10:25

10:35

林道出合い10:50

水無 11:15

第1鍾乳洞11:20

11:30

尾根取付 12:20（沢との別れ）

12:30

井原山頂 12:57

13:45

雷山山頂 14:52

15:35

雷観音 16:40着

17:20発のバス

費用：

弁当 100円

市内電車 50円（天神までの往復）

天神・曲淵 140円

雷観音天神 200円

久住（昭和46年10月）

期日：昭和46（1971）年10月3日

天候： 晴れ

コースタイム

牧ノ戸 09:15発

久住山頂 10:40着

11:15発

牧ノ戸 12:20着

何しに、誰と行ったんでしょう？記録なし。

昼飯前のひと運動という感じですね。

記録に残っている最後の久住です。

祖母傾縦走（昭和46年10月・11月）

期日：昭和46（1971）年10月31日～11月2日

同行：一名（E）



傾山頂より祖母方面

雲海の向こうには、左手祖母山の奥に阿蘇5山、右手人の奥に久住の山なみが見えている。

（古いパノラマ写真をスキャン）

五ヶ所まではいつもの夜行からの乗り換えのコース。

高森からのバスが遅れ、都留での乗り換えに間に合わず、

同じコースをめざしていた別のグループと一緒にタクシーで

五ヶ所まで入った。

コースタイム

10月31日 晴れ

10:20 五ヶ所

11:25 鳥居

11:53

12:26 ワナバの滝

12:35

13:00 ピーク

13:20 三角点

13:30

13:42 水場

13:48 国見峠

14:09 水場

14:15 九合目

14:25

14:28 小屋別れ

14:38

14:45 祖母山頂

11月1日 快晴

06:00 小屋出発

06:15 祖母山頂
06:35
07:30 クロガネ尾根
07:40 天狗
07:48
08:08 障子岳
08:15
08:28 土呂久別れ
09:10 古祖母
09:25
10:25 水場
10:30 高圧線下通過
10:45 尾平
11:42
12:00 水場
13:08 三国岩
13:23 本谷
13:27 水場
13:45
14:40 笠松
14:45
15:00 遭難碑
15:35 九折越小屋到着

1 1月2日

05:15 起床
06:16 小屋発
07:20 傾山頂
07:45
08:40 小屋
09:00
10:43 九折
10:55
11:45 上畑
11:52
12:38 竹田駅
12:51 急行ひまわりで帰途へ

上畑から竹田へのバスは朝1本だけ。

九折の店で竹田市内のタクシー会社に電話して、県道？の上畑まで迎えに来てもらうように連絡し、それから1時間ほど歩いて上畑に着くころにタクシーもやってくる、という感じです。

井原・雷山（昭和46年12月5日）

期日：昭和46（1971）年12月5日

天候：くもり 雨 ときどき曇り

コースタイム

08:10 天神

09:30 野河内 発

10:20 水無

10:30 第1鍾乳洞

11:40 井原山頂

12:25

13:32 雷山山頂 着

15:35 雷山スキー場 発

16:15 雷観音 着

18:13 前原 発

雷観音発のバスが18:20まで2時間も無いので、
前原方面に歩いていると（何キロあったんでしょうね）、
（地図で計ってみると直線で7km程度ですね。）
小型トラックが止まって、荷台に乗せて前原まで送ってくれた。

これが山行の最後の記録となっている。

これから2008年まで37年間何してたんでしょうね？

35年ぶりの久住

2008年8月12日

思うところあって、久住へ。

10時前のRSで博多まで。駅レンを予約していたが、盆休みで受付がすごい行列。受付まで20分ほどの待ち。

以前の利用歴が記録されているようで、以前に利用されたこともありますね、と言われ、3週間ほど前にも借りたから説明は不要、受付のお姉さんも後ろの行列を見て、説明省略。

シートをもって、駅ビル4階へ。

車はTOYOTAのビッツだった。

予約する時、最初はTOTYTAレンタカーに直接予約しようとしたが、このクラスに空きはなく、駅レンで予約したのだが、大手が言えは出てくるのですね。（直接の予約のほうが割引などで安かった。）

とりあえず3号線を南下して、途中のラーメン屋で昼食。

しかし3号線は込んでますね。昼食後は3号線と並行して東側を走る裏道を南下して大宰府ICから九州自動車道へ。

鳥栖のJCTで大分自動車道へ入ったあたりで、連れ合いはお休みモードへ。

それを見て、私も眠くなり玖珠PAで30分ほど昼寝。

ここは8日にMINISTOPがオープンしたばかりらしい。

九重ICで高速を降り、ナビに従い「九重“夢”大吊橋」へ。

でも、一般道に出たところで、右に行っても、左に行っても大吊橋の案内が！ どちらに行けばいいんだ！？

ナビには橋の管理事務所を入れておいたが、これが失敗だったのだろうか？ナビにしたがって進むと、どうも橋の反対側に導こうとしているようだった。途中で道路標識に従い、メインの側に到着した。遠回りしたようだ。

入場料500円を払って、往復する。

幅は思ったより広かったが、結構揺れますね！

秋の紅葉のシーズンはきれいでしょうね！



吊橋から今日の宿まではすぐ、長者原の九重登山口でやまなみハイウェイに合流し、寒の地獄を過ぎると今日の宿、星生（ほっしょ）ホテルに5時過ぎ、到着。

=====

2008年8月13日 、一時夕立ち

8時半 ホテルをチェックアウト、頼んでいた弁当をもらう。

牧の戸峠までやまなみハイウェイを車で5～6分程度。標高1333m。ホテルが標高1150m程度なので、200mほど上がったことになる。峠の駐車場には同じような登山者のグループが数グループすでに準備している。無料駐車場も、売店の近くは一般者用に空けておくように指示が書かれており、道路側に停める。



売店で買い物。連れ合いは雨具（400円）を、私は久住の地図（800円）を手に入れる。

今日の天気予報は午前30%、午後50%。

雨具は念の為の程度のもりだったが後で役に立つことに。

40前後の家族連れのお父さんとの会話。

やっと言いくるめて家族を山に連れてきたとのこと。

山を好きになってくれるといいですがね、と言って、

ほとんど空荷で夫婦と中学生前後の男の子、女の子の4人で登って行った。

とかやって9時ころ登頂開始。、

最初は階段をだらだらと沓掛山（1505m）まで上り一辺倒。

これがシンドイ。歩き始めの単調な上りばかり、汗がどっと出始める。ここが辛抱！ 一歩一歩ゆっくりと。途中で森林限界を超える？低木となり見晴らしがよくなる。停めた車がだんだん小さくなっていく。一般客用の展望台で小休止、これを超えると森林限界を超えるのか？低木になって見晴らしが良くなる。



沓掛山まで登りきれば、あとは九重別れまでだらだらとした道が続く。少なくともほとんど標高は変わらない、つもりだった。

全体的な傾向に間違いは無かったが、沓掛山の下りにあんな岩場があった記憶は無かった。結構きつい岩場を下る。距離は短いが上り、下り一方通行の所もある。



それを下りれば、あとは記憶どおりのだらだら道。西側・熊本側は曇って何も見えないが、東側・大分側は時折遠くまで見える。昨日行った夢大橋も遠くに見えている。



天気がよければ久住の山頂からも見えるらしい

星生山（1762m）との別れでは果敢に星生を目指そうとしている初老の夫婦連れがいた。いやあ我々も初老に見えるんでしょうね。他の人には。

星生に登ろうなんて無謀なことは考えずに、ひたすらだらだら道を進む。天気がよければこのあたりからは久住の山頂が見えるんじゃないかな。

花を愛でる余裕もまだある頃。



九重別れの手前に避難小屋があるが、その手前、星生山の尾根が合流するあたりから、岩がごろごろした下り道になる。これが歩きにくい。黄色のペンキでルートをマーキングしてくれているが、古いのやら、新しいのやらいくつかのマークがあり、どれに従うのが歩きやすいのかわからない。

苦労しながら避難小屋到着。



その手前で風で雲が切れたとき久住の山頂が拝めた。連れ合いはそれを見て、げえ、まだあれだけ登るのという。

避難小屋の横にはトイレもできていた。

そういや、牧の戸にトイレの協賛金依頼の看板が立っていた。ここにできていたんですね。

九重別れよりの久住山頂。最後の上りです。



最高峰の中岳の別れあたりからはガスがではじめる。最後の辛抱ですね。



11:40 山頂到着 (1787m)。残念ながら、雲の中で見晴らしは利かない。



時折、風で雲が切れると飯田高原の登山口方面が見える。

記念撮影、弁当を食べて

12：10 出発。

九重別れ、避難小屋をすぎ、来る時に苦労した岩がごろごろした所を上り、だらだらした平坦な道になったあたりで雨粒が落ち始める。雨具を着けている間にも雨粒が大きくなり、土砂降りの夕立ちへ。



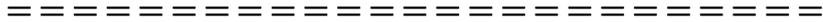
雨具もあまり役立たず。しみ込んできているのか？汗なのか？シャツも、下着もびしょぬれに。

その雨も30分ほど、沓掛山頂に着いたころには雨も上がり、青い空が広がり始めていた。

14：30 牧ノ戸峠の売店に到着。



阿蘇方面も見え始める。



2008年8月14日 

6時過ぎに目を覚ます。さすがによく寝た。

朝食は8時半からなので、朝湯へ。

最初は内湯に入るつもりだったが、天気も良いので、今朝も露天へ。昨日とは男女が入れ替わっていた。

朝食も昨夜とおなじ食事処にて。

10時過ぎチェックアウトして、



近道の方を通過して、瀬の本へ。

九重周遊道路に入り、左回りで竹田方面へ。

途中、展望台の幟にひかれて寄ってみる。

ここは以前母を連れてきた時に寄ったことがある。
遊覧ヘリコプターの発着場にもなっている。

正面に阿蘇方面、根子岳を始めとした阿蘇5山が、



背面には昨日のぼった久住が青空の下、頂上まできれいに見えている。



一日入れ替わっていたら、久住からもきれいに眺められたのにとの思うが、その時は日焼けが大変だったろうな？

遊覧ヘリ（大人4000円）が久住の頂上方面（実際には九重別れ）を超えて、飯田高原方面にまで飛んで行ってるのを見て、一度乗ってみようか？という気持ちになったが、よく見ると乗車待ちの椅子が埋まっている。15分程度？の遊覧でしょうが、あの待ちだと1時間は超えるなと思いやめにする。

もとの周遊道路に戻る。

と、だんだん瀬の本が見えてくる。この道路、どんなになってるんだと思ったら、展望台から出た時に左右を間違えて

元の方向に戻っているだけだった。間違いに気づいても、Uターンできるところはなく、結局瀬の本のドライブインに入ってUターン。ついでに土産物の購入。ちょうど平泳ぎ200mの決勝があって2冠達成を見ることができた。

気を取り直して、再度周遊道路へ。

展望台を通り過ぎ、赤川温泉の別れを超えると、花公園。ここも以前来たことがあるので入場は省略。

更に進んで「レゾネイトクラブくじゅう」へ。

泊ってみたかったが、満室で断られた所に寄ってみる。昼食バイキングをやっていたが、連れ合いは一昨日から美食を食べ過ぎて胃の調子が悪い。お茶でもと喫茶を探すも見つからない。フロントに聞くとバイキングをやっているレストランで喫茶と言ってくれというのでレストランへ。

テラスの席に通される。

当然ですが冷房はなく、すこし暑いですね。時折風が通ると涼しいですが。

正面に[祖母・傾](#)の山波が見える。



残念ながら頂上あたりには雲がかかっている。

思えば、祖母・傾縦走が最後の山行だったのでは・・・あそこをトライするのはもう無理でしょうね。

お茶して、帰路へ。

高速は日田ICからということになるので、途中日田の旧市街に寄ってみようとナビに入れる。

瀬の本まで有料道路（500円）を通ってみる。

車が少なく安全だけが売り？ 見晴らしも良くないし、いいことなし。これでペイするのだろうかと思うほど（ペイしていないでしょうね）通行車両が少なかった。

黒川温泉を通り過ぎ、日田方面へ。

黒川から日田まですぐのつもりだったが、結構遠かった。

2時半ころ日田旧市街へ。駐車場も完備していなくて、土産品売り場の駐車場に停めるしかない。時間もあまりないので、散策はやめにして、インターへ向かう。

日田ICから大分道に入り、PAで車の荷物室に積んでいた、荷物の整理をして、九州自動車道を大宰府ICで降り、福岡の都市高速へ。

16時半ころ都市高速を降り、最初に見つけたスタンドで給油。

19リッター 3572円 (@188円)。

約300kmの旅程、燃費15km/リットルという所でしょうか。

小型車の燃費はさすがにいいですね。

博多駅前まで車を返し、予約していたのより1本早い、5時過ぎのRSで岡山へ戻る。

コメント

35年前の久住に昔の山仲間 Kさん(keiさん) からコメントをもらいました。

=====

おめでとうございます (kei)

2008-08-15 21:59:23

やりましたね。日頃あまり運動していない人が、昔とった杵柄なんでしょう、久住に登頂とは、おめでとうございます。

WiiFitでは当方がリードしているつもりでしたが、完全に負けましたね。今の自分は山に行こうという勇気がありません。

遠い昔(1970.3)の雪と氷の九重行きがよみがえりました。秋になったら低い尾根に挑戦してみますかね。

=====

ありがとう (t2)

2008-08-16 03:13:28

3年前ほどから足腰にしびれ感があり、山に登るなんて無理だと思っていたのですが、還暦になってから山に行き始めた同期の仲間を見て、一度トライしてみようという気になりました。

試すとなると、知ってる処。楽な処。ここが登れなきゃ、二度と行かないと言える処、として選んだのが今回のコースです。

雨には会いましたが、ゆっくりマイペースで行けば、まだやれるかな？という感じでした。今回は試しということで、装備は間に合わせですが、30年前の物で使えるものはありませんでした。

70年3月の九重って、坊がつるにテント（それもフライも無い、夏用を）張って、朝起きたら雪の中だったやつですよ。

keiさんと一緒だったんだ。記録残ってますか？

=====

このあとKさんとは迷コンビを復活して、一緒に山歩きをしています。その件に関しては続編

でも・・・

おわりに

最後まで本書を眺めて頂き有難うございます。

この本（ブログ）は最終章の「35年ぶりの久住」（正確には38年ぶり）に行き、その記録をブログに書いたところ、古い友人たちから、昔の山の記録やら、写真やらが寄せられ、それをまとめたブログとなりました。今回、ブログからPubooを利用して電子書籍という形でまとめさせてもらったものです。

山歩きはその後も続いており、還暦後の記録はまた機会があれば続編としてまとめてみたいと思っています。

なお、最新の折々の記録は次のブログに掲載しますので、興味のある方は覗いて見てください。

ブログ「山の記録」

<http://blog.goo.ne.jp/t3tarumi>